

皆様に、インフラに親しんでいただくための取組について

～150年間積み上げたインフラが、暮らし、経済、安全を支えています～



◇平成30年度の取組内容

平成30年は北海道命名150年目であったことから、北海道の礎を築き、今も暮らし・経済・安全を支えるインフラの役割について振り返る節目となった。

北海道開発局では、これを契機に、これまでインフラとの接点が少なかった方々が、インフラに親しめるような各種の取組を実施した。

- ① これまで北海道の暮らしや産業を支えてきたインフラの整備の歴史や、インフラがもたらした効果について、ツアーを通じて実感できる「インフラ歴史ツアー」を実施した。
- ② 道新文化センターとの協力により、「北海道150年を支えたインフラの整備の歴史をたどる講座」を開催した。
- ③ 札幌地下歩行空間(チ・カ・ホ)にて、ポップカルチャーとインフラとの初のコラボレーションである北海道インフラフェスタ【キタフラ】を開催した。

◇平成31年度の取組方針

「インフラ歴史ツアー」の後継編として、「歴史」はもとより、地域の「産業」、「文化」、「食」といった様々な要素を絡めた「インフラわくわくツアー」を実施する。

平成30年度の取組 ①インフラ歴史ツアー

北海道開発局では、民間観光ツアーの中に、北海道開発局所管施設の見学を組み込む「公共施設見学ツアー」を平成25年度から実施。

「インフラ歴史ツアー」では、これに以下の要素を加え、言わば、この特別編として実施。ほぼ定員いっぱいの、合計160名が参加。

○インフラを取り巻く背景、歴史、効果等を、解説するだけでなく、体感や実感をできる内容を交えながら、ストーリー性のあるコンテンツを展開。

○第8期北海道総合開発計画にて戦略的産業と位置づけられている「食」と「観光」は、これまでのインフラの積み上げにより発展していることから、「観光」のみならず、「食」の要素を取り入れた。

○関連自治体や、地域のインフラ利用者の協力を得て、北海道開発局の所管する施設以外の見学や体験談を聞くことを取り入れた。

インフラ歴史ツアー総括表

	ツアー名	催行日	参加人数	参加者の感想
1	【小樽編】(定員20名) 五感で感じよう！小樽の歴史 北海道の経済を支えた「小樽港」と鉄道「手宮線」の歴史をたどる	6/24(日)	19	<ul style="list-style-type: none"> ・各地のガイドの方の熱心な説明で感激。 ・1つのテーマ毎のツアーもしてほしい。港、鉄道、道路、トンネル、ダム等、先人の苦勞を改めて学んでみたい。
		7/21(土)	20	
		8/23(土)	20	
2	【篠津・石狩編】(定員20名) 国家的一大プロジェクト「篠津泥炭地開発」と石狩川治水の歴史	7/28(土)	12	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの未来のため、小学生に積極的に見学をさせたい。 ・普段入れない所に入れ、見られないものを見ることができ、とても興味を持つことができた。
		8/18(土)	20	
		9/1(土)	20	
3	【十勝編】(定員40名) 五感で感じよう！十勝農業の歴史	9/29(土)	9	<ul style="list-style-type: none"> ・とても面白い企画だと思う。テーマをさらに深く学べるツアーを期待しています。
4	【釧路編】(定員20名) 五感で感じよう！地域産業の発展と釧路港の歴史	10/16(火)	20	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて港湾を見学しましたが、釧路港の荷上がこんなに進んでいる事に驚きました。 ・また参加したいと思います。
		10/27(土)	20	

平成30年度の取組 ①インフラ歴史ツアー実施例

「世界の北海道」を目指して
—北海道総合開発計画—

篠津・石狩編「国家的一大プロジェクト『篠津泥炭地開発』と石狩川治水の歴史」

- かつて篠津地域は、石狩川が度々氾濫し、かつ、農耕が困難な水はけの悪い泥炭地であったが、明治期からの治水対策と、世界銀行の融資を受けて行われた国家的プロジェクト「篠津泥炭地開発」の排水・かんがい施設等の整備により、日本有数の穀倉地帯となった。
- 本ツアーは、このような篠津地域が一大穀倉地帯となるまでの経緯を学び、インフラの整備効果を実感できるものとした。

2018年7月〜9月
新シイビー・ツアーズ 協力:北海道インフラPR実行委員会 YOB0721 パスガイド

北海道命名150年記念インフラ歴史ツアー第二弾!
国家的一大プロジェクト「篠津泥炭地開発」と石狩川治水の歴史

出発日 7/28(土)・8/18(土)
9/1(土) 各出発日20名限定!
旅行代金お1人様(大人・子供同額) 5,580円 150

当ツアーは、「北海道インフラPR実行委員会」よりツアー代金の一部を助成いただいております。
■参加人数20名まで ■参加費少額(大人1万円) ■乗車券別付
■乗車/送迎1回 ■利用/バス会社(北海道中央バス又は同等) ■参加会場(中央バス札幌ターミナル) [札幌市中央区大通西1丁目(北海道庁前駅南口)]

石狩川治水史(200年)
「7」ツアー
実際に現場を巡りながら、泥炭地の開発や石狩川の治水事業の歴史に触れ、安心して生活し、農業ができるようになり、美味しいお米や野菜が採れる肥沃な農業地帯となった地域の成り立ちを学ぶことで、インフラ整備の効果を実感できるツアーです。
*現在、日本有数の産地帯となっている産地帯は、かつては農耕が困難な数段で水はけの悪い泥炭地でありました。また、その地帯を流れる石狩川が、度々氾濫し水害を引き起こしました。
*明治期からの治水対策により、石狩川流域の水害被害の軽減が図られ、水はけにより土地の排水を促進し、さらに世界銀行の融資を受けて行われた国家的プロジェクト「篠津泥炭地開発」による排水・灌漑施設等の整備により、農地の生産が盛んになりました。

地元のお米と野菜のご夕食!
北の大地マルシェ
岩見沢市北村にある農産物直売所、地元で採れた野菜や地元農産物を使った加工品を販売しています。今回のツアーでは、地元で採れた野菜とお米を使った夕食を堪能していただきます。

篠津泥炭地開発(篠津運河)当時の風景
運河開削機
運河開削機

ツアーに参加の際は、アンケートへの記入をお願いしております。
当ツアーは、こちらのシリアルが最終目標となります。
※写真はイメージです
http://www.cb-tours.com



篠津泥炭地資料館：泥炭の標本を見学



ななつぼし、ゆめぴりかの試食会



月形樺戸博物館：前町長から解説



泥炭の上はクッションのような歩き心地



- 道新文化センターとの連携にて、北海道150年を支えたインフラ整備の歴史をたどる、市民の方々を対象とした講座を実施。
- 北海道開発局は、各分野の講師の紹介や、資料提供などにおいて協力。
- 開催した講座で学んだ内容に関連するインフラの役割について、現地で体感できるツアーを実施。

	開催日	タイトル	講師	参加者数
第1回	6/9 (土)	河川氾濫とダム・治水	鈴木英一 氏 伊藤組土建(株)副社長 博士(工学)	28名
第2回	6/30 (土)	延びてつなぐ人と道	原口征人 氏 一般社団法人北海道 開発技術センター上席 研究員、博士(工学)	24名
第3回	7/28 (土)	港が拓いた北海道	関口信一郎 氏 日本データサービス (株)顧問 博士(工学)	23名
第4回	8/25 (土)	静かな大地を開く、土地改良	梅田安治 氏 農村空間研究所所長、 農学博士、北海道大学 名誉教授	37名
ツアー実施	10/13 (土)	「北海道を支えた土木インフラ事業の歴史 道・港・川・そして農地」		25名



講座の様子



ツアーの様子
土木遺産(創生橋)

平成30年度の取組 ③北海道インフラフェスタ「キタフラ」の開催

- 2月17日(日)、札幌地下歩行空間(チ・カ・ホ)にて、インフラに触れる機会の少ない人も楽しめる、北海道インフラフェスタ【キタフラ】を開催。
- 日本が誇る「ポップカルチャー」のコスプレと、「インフラ」とのコラボレーションに初めて挑戦！！
- ワークウェアファッションショー、「インフラ」や「ほっかいどう学」のクイズ大会、パネル・模型展示、最新ワークウェアの親子試着などを行い、約1,500人の市民が参加し、会場は大盛況。

[開催日時] : 平成31年2月17日(日) 13:00~17:00
 [場 所] : 札幌地下歩行空間 チ・カ・ホ 札幌駅側イベントスペース
 [主 催] : 北海道インフラPR実行委員会(事務局 北海道開発局)
 [後 援] : 札幌市、(株)北洋銀行
 [ユニフォーム企画協力]: (株)ケイズネットワーク



MCの shiho さん



コスプレイヤーとアイドルによる最新ワークウェアファッションショー



会場は大盛況！！



最新のワークウェア試着コーナー



インフラ模型コーナー



インフラパネル展

平成31年度の取組 インフラわくわくツアー



- 「インフラ歴史ツアー」の後継編として、「歴史」はもとより、地域の「産業」、「文化」、「食」といった様々な要素を絡め、ストーリー性のあるコンテンツを展開したツアー「インフラわくわくツアー」を実施する。
- 地域の団体と連携して地域に根ざしたストーリーを構築し、協力してツアーを実施していくことで、インフラがその地域の観光資源として根付き、地域活性化のためのアイテムとして活用されることを目指す。

実施方法

- 見学先は、北海道開発局の施設見学に限定することなく、他の機関の所管するものも対象とし、インフラと地域のつながりをより深く感じ取ることができるものとする。
- 施設の見学や解説のみでなく、触れて、味わって、見学者が五感を使って実体験できる内容とする。
- 見学施設等を、地域の観光資源としても活用していく観点でストーリーを構築していく。

取組のイメージ

